

2020年6月19日
s a n t e c株式会社

株主様・投資家様からいただいた質問への応答（要旨）

決算発表後にありました（5月12日～）主要な質疑応答の要旨を記載しております。

- Q. 新型コロナウイルス感染症の影響はありましたか。
- A. 2019年度の業績に直接的な影響はございませんでした。間接的な影響としては、サプライチェーンの混乱や輸送の一部遅延がありました。これも軽微の範囲でした。現在は、ほぼ通常の状態に戻っています。今後も、サプライチェーンの動向や各国の状況を引き続き注視してまいります。また、社内でも従業員の健康観察、3密回避、来客対応における注意等、感染防止対策を継続してまいります。
- Q. 米中貿易摩擦のリスク要因はどこにありますか。
- A. 米国と中国の双方に販売ができなくなることが一番のリスクと考えています。現在は、アメリカも中国も需要が戻ってきている状況であります。今後については、注意深く観察していく必要があると考えています。
- Q. 5Gサービスの導入は、業績にどのように影響するのでしょうか。
- A. 5Gは第5世代の移動通信システムの規格であり、当社製品は無線通信に直接利用されるものではありません。しかしながら、5Gサービス導入が進めば遠隔医療、自動運転等、通信サービスが拡大し情報量がさらに増加していくことが見込まれるため、当社製品が使われる有線通信においても設備投資が拡大すると期待されています。
- Q. 4Gから5Gに移行したら販売製品に大きな変化があるのでしょうか。
- A. 販売製品が大きく変わることはございません。
- Q. 決算短信において主要な販売先に Fabrinet 社が出てきますが、どのような会社なのでしょうか。
- A. Fabrinet 社はタイにある EMS（電子機器の受託生産を専門に行うサービス及び企業のこと）です。複数のお客様が Fabrinet 社を利用しているため、大口顧客として表示されています。
- Q. 2019年度第4四半期は、売上高は15.9億円と堅調でしたが、営業利益は、前四半期（2019年度第3四半期）より悪化しています。2019年度第4四半期に何か特殊な要因があったのでしょうか。

- A. 2019年度第4四半期については、決算賞与の引当、周年事業の費用を計上しています。
- Q. 2020年度業績予想における売上高は2019年度比9.7%増加ですが、営業利益は1.4%の増加に留まっているのはなぜですか。親会社株主に帰属する当期純利益が2019年度比で減益となる理由を教えてください。
- A. 2020年度は2019年度と比較して利益率の低い製品の販売が伸びる想定をしています。また、研究開発と設備投資の強化に加え、為替についても2019年度より約3円の円高を想定し1ドル=105円としていることや2019年度は特別利益を計上していることから、2020年度の親会社株主に帰属する当期純利益の予想は2019年度と比較して減益となっています。
- Q. 為替(USドル/円)が、1円変動した時の営業利益への感応度を教えてください。
- A. 2020年度の予想に対する影響額は約4,000万円を見込んでいます。円高は減益要因となります。なお、2020年5月12日に発表した業績予想の前提とする為替レートは1ドル=105円です。
- Q. 2020年度に売上が伸びると想定している製品は？
- A. 光部品関連事業では光の強さを調節する部品である光可変減衰器(光アッテネータ)、光測定器関連事業では眼科医療機器ARGOSの売上が伸びる想定をしています。
- Q. 中期経営目標や数値目標はありますか。
- A. 中期経営目標は社内では作成していますが、ハイテク産業であるため中期的な先行きが不透明なので、外部には開示しておりません。数値目標としては、売上高総利益率50%、売上高営業利益率15%を目標としています。
- Q. 2020年度の目標に「カンパニー制導入とベンチャー精神回帰による成長加速」とありますが、「カンパニー制」についてももう少し詳しく教えてください。
- A. これまでのBU制(ビジネスユニット制)をさらに強化し、各カンパニーに責任と権限を与えて、各々が1つの会社に近い体制を目指しています。全員が経営意識をもって共通の利益目標に向かい、自律的にスピーディーに動ける組織を作ることが制度導入の目的です。

当社の開示セグメントとカンパニーについて

開示セグメント	カンパニー名	事業内容
光部品関連事業	AOC (Advanced Optical Components)	主に光通信に必要不可欠な光部品を開発、製造、販売する事業です
光測定器関連事業	LIS (Laser Instrument & System)	主に光通信市場向けの波長可変光源や各種光測定装置を開発、製造、販売する事業です。
	OIS (Optical Imaging & Sensing)	一般産業向けに販売するOCT光源及びOCTシステム製品、そして医療現場向けに販売している眼科医療機器を開発、製造、販売する事業です。

上記の回答は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。